



JCOMM news

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

第13回日本モビリティ・マネジメント会議開催報告

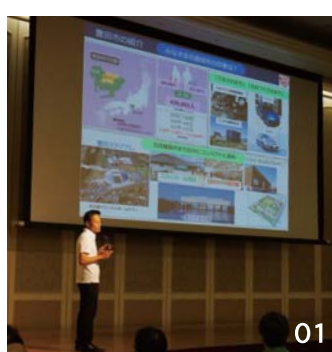
去る7月27日、28日の2日間、愛知県豊田市名鉄トヨタホテルにて、第13回日本モビリティ・マネジメント会議が開催されました。発表件数は、口頭発表12編、ポスター発表62編、また、参加者数は約450名の方にご参加いただくことができ、盛況のうちに終了することができました。

皆さまのご協力と地元自治体、企業等のご尽力で無事開催することができ、厚くお礼申し上げます。

初日27日午前中の開催地企画では、アヤらかしてこそ見える豊田の未来というテーマで豊田市役所都市整備副部長の栗本光太郎様にご講演いただき、その後、名城大学理工学部松本幸正教授のコーディネーターのもと、パネルディスカッションが行われました。

栗本副部長のお話では、豊田市中心部の公道で日本初となるFMX（フリースタイル・モトクロス）を実施し、その様子を迫力ある映像等を交えながら、豊田市の交通政策、まちづくり政策について、分かりやすく紹介いただきました。

オープニングセッションでは、「高齢者が元気になるモビリティ社会を目指して」名古屋大学COIの豊田市における取組み「こいつ」テーマで、名古屋大学未来社会創造機構の森川高行教授に基調講演をいただき、その後、「モビリティが実現する暮らしの豊かさ」というテーマで、トヨタ自動車（株）先進技術開発カンパニー先行開発推進部E V事業企画室の豊島浩二室長に特別講演を



01

いただきました。お二人の講演では、特に、現在、国家規模で開発・試行が行われている自動運転の現状や展望についてお話いただき、森川先生は、豊田市の足助地区での実証実験を踏まえた高齢者の足の確保や健康増進についても紹介いただきました。

その後、平成30年度JCOMM賞の授与式では、デザイン賞1件、プロジェクト賞1件の表彰が行われ、受賞した取組みについては、ポスターセッションや口頭発表の中で、詳細な説明と参加者との意見交換が行われました。

また、企画セッションについては、名古屋大学の森川高行教授のコーディネーターのもと、豊田市長太田稔彦氏、つばめ自動車（株）代表取締役社長天野清美氏、トヨタ自動車（株）豊島浩二氏、京都大学大学院教授・JCOMM代表理事藤井聡氏をパネリストとして、「高度化する将来のモビリティとMMの展開」というテーマでパネルディスカッションが行われました。

ポスターセッションは1日目、2日目ともに実施され、日本各地でのMMの実践的な取組が多数紹介され、参加者の今後のMM実践のヒントになったことと思います。

JCOMM恒例の懇親会も27日のプログラム終了後に開催され、多くの参加者において時間の許す限り熱い交流が行われ、懇親会の後半では、次期開催予定都市を代表して、金沢大学高山純一教授より、ご挨拶をいただきました。

なお、発表に用いられた資料はJCOMMのウェブページにて公開されており、ですので、是非、ご活用ください。

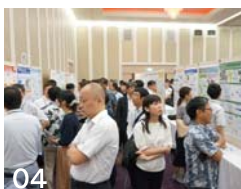


01: 開催地企画の講演の様子

02: オープニングセッションの様子

03: 授与式の様子

04: ポスター発表の様子



04



02

第14回JCOMM開催場所決定

第14回日本モビリティ・マネジメント会議は2019年7月19日～20日（予定）に石川県金沢市にて開催することが決定しました。

北陸地方での開催は、第7回目として富山市で開催されて以来、7年ぶりの開催となります。多くのご参加をお待ちしております。

【次回開催地をちょっとだけご紹介】 鼓門（つづみもん）：伝統芸能である能楽・加賀宝生（かがほうしょう）の鼓をイメージして作られた金沢駅。らせん状に組み上げられた柱と、ゆるくカーブを描く面格子の屋根が美しく、「世界で最も美しい駅14選」の6位にも選ばれた観光名所。



第22回欧州モビリティ・マネジメント会議報告

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
 交通環境対策部 交通環境企画課 岡本 英晃

2018年5月30日から6月1日までスウェーデンのウプサラで第22回ECOMMが開催され、世界各国から330人の参加がありました。

3日間で25のセッションで80件を超える発表が行われたほか、基調講演ではgoogle社やスウェーデン鉄道などの取り組み紹介がありました。印象的であった取り組みの一部を紹介します。

スウェーデンの病院職員対象に取組まれたエコ通勤の紹介でした。通院患者に加え年々マイカー通勤者が増えてきた病院では、駐車場を増やしても悪循環となり、次々とマイカー利用者が増えた結果、駐車場に入れない車で渋滞が発生して深刻な問題となっていました。そこで2011年から大学病院で、2012年には公立の病院において、マイカー以外の通勤方法を提示し、呼びかけをする事で2013年から2016年の間で17%のマイカー利用者が減り、300台分の駐車スペースの削減に成功したとのことでした。さらに、自転車通勤者が増え、健康増進も図ることが出来たそうです。また2017年には、駐車場を月50ユーロの料金を取ることにしたところ、さらに17%のマイカー利用者が減り、300台分の駐車スペースの削減につながったようです。費用としてはマイカー以外での通勤を呼び掛けた



スウェーデンでの病院職員向けエコ通勤施策の費用対効果
 Pernilla Hyllenius Mattisson:600 fewer cars per day and happier employees, ECOMM2018発表資料からの抜粋

り、駐車場の整備をしたりと年間12万ユーロかけたのに対して、職員の医療関係費用の削減と、不要となった駐車スペースの削減などで年間44万ユーロの効果があつたようです。我が国でのエコ通勤は、公共交通機関の利用促進策や渋滞対策などとして行政からの依頼で企業が取組み始めることが多いと思われませんが、経営改善ツールの一つとして扱われていることに驚きました。



JCOMM共催セミナー 地域と教育を元気にするフォーラム2018

一般社団法人 北海道開発技術センター 大井 元揮

去る2018年2月1日、北海道札幌市にて、地域と教育を元気にするフォーラム2018「社会の基盤と学校教育（主催：（一社）北海道開発技術センター・共催：（一社）日本モビリティ・マネジメント会議等）が開催されました。

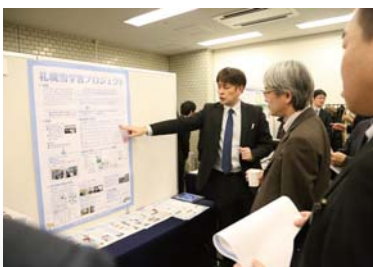
本フォーラムでは、最初に、「ほっかいどう学」の更なる展開に向けてというテーマで、北海道開発局開発監理部開発計画課長の竹原勇一氏より、話題提供をいただき、その後、札幌市立屯田小学校校長で、北海道社会科教育連盟の委員長の新保元康氏より、「小学校で社会資本整備をどう教えるか」というテーマで、基調講演をいただきました。

新保校長先生の講演では、若い先生の中では、社会資本整備への認識が低いことを挙げ、その上で、社会科教育における社会資本整備の内容を振り返り、また、スウェーデンの社会科教育との対比から、日本の社会科教育の課題についてお話をいただきました。さらに、新保校長先生が関わっている札幌市交通環境学

新保 元康氏



藤井 聡氏



ポスター発表の様子

習（MM教育）や雪学習等の実践を例として、教諭・行政・専門家の連携の価値についてもお話をいただきました。

また、ポスターセッションでは、現場の教諭や行政関係者等から、北海道で実践されているMM教育、防災教育、雪学習等、社会基盤と学校教育が連携しているプロジェクトが発表され、学校教諭、社会基盤整備に係る技術者や行政関係者等の交流が行われました。

プログラムの最後では、京都大学大学院教授・土木学会「土木と学校教育会議検討小委員会」委員長の藤井聡先生より、「インフラ整備と教育」というテーマで特別講演をいただきました。藤井先生の講演では、「社会科教育の誕生」からお話が始まり、「北海道の経済が衰退気味である理由は、青函トンネルが1本しかなく、津軽海峡がボトルネックになっている」「社会科教育においては、北海道が置かれている状況の真実・課題を認識させることが重要」ということを力強くお話しいただきました。

編集後記

今年のJCOMMは台風12号が豊田市を大きな勢力で通過したため、現地見学が中止となり、先進モビリティの体験が叶わず、大変、残念でした。また、本号では、当センター主催・JCOMM共催のフォーラムを紹介させていただきましたが、このフォーラムは、今後も継続して開催する予定でございますので、全国のみならず、ご参加いただくと幸いです。

(一社)北海道開発技術センター 大井 元揮